

(2) 建築物等の色彩の考え方

風景に調和する色彩とは

Setagaya Color Guide

基本は“周囲”と“自然”になじむこと

- ・ 建築物等は周囲の街並みや自然との関係の中に存在しており、建築物単体の色彩がどんなに優れていても、周囲との関係が良好でなければ、風景としては優れたものにはなりません。
- ・ 美しく親しみやすい風景をつくり出すためには、個々の建築物等の美しさとともに、街並みやみどり豊かな風景のひとつまとしての位置づけを考え、周囲になじむ色彩で風景を「整える」必要があります。



風景を「整える」色彩を考えよう

- ・ 建築物等の色彩計画を行う際には、以下の3つの視点で検討していきます。

I 色の「選び方」で整える

- ・ 計画地と周辺風景の観察
- ・ 地域に望ましい色彩の検討
- ・ 周辺を含めた地域の風景

I-① 周辺の風景を確かめよう

I-② 自然の秩序に学ぼう

II 色の「使い方」で整える

- ・ 大規模な建築物の影響を考慮
- ・ 違和感が少ない色使い
- ・ 周囲になじむ色使い

II-① 色の使い方を考えよう

II-② 色の心理的効果を活かそう

III 色と「素材」で整える

- ・ 素材による雰囲気演出
- ・ 建築物を魅力的に彩る素材の工夫

III-① 素材感を活かそう

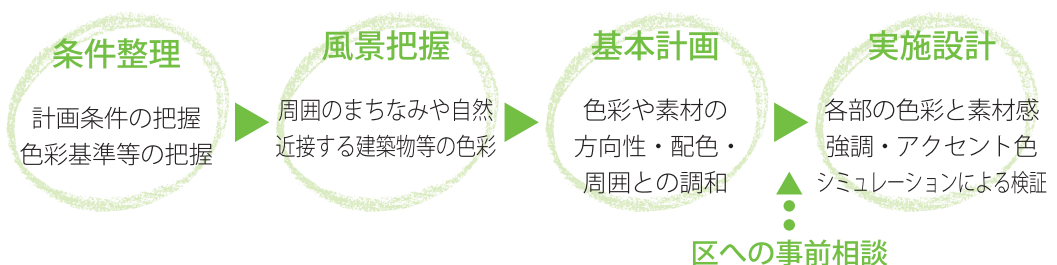
III-② 素材の特性を理解しよう

コラム

プロセスの重要性

- ・ 建築物等の計画において、色彩の検討は後回しになってしまうことがよくあります。
- ・ 一方、色彩は外観の印象や風景に与える影響が大きく、デザインの要ともなる要素です。
- ・ 計画の各段階で色彩のあり方も検討するようにしましょう。

■建築物等の計画段階に応じた色彩検討のプロセス



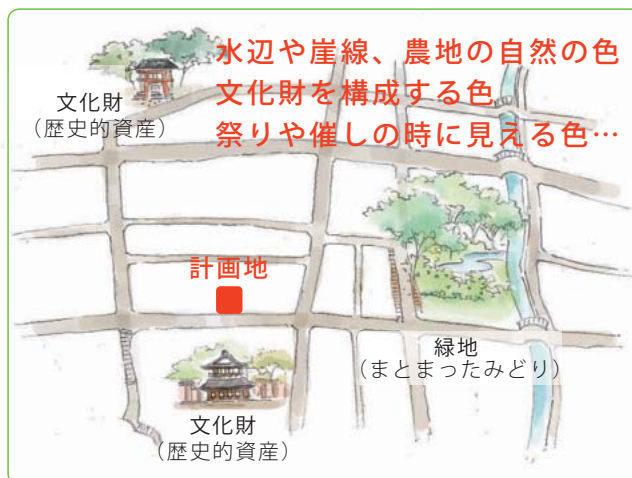
I 色の「選び方」で整える

I - ①
周辺の風景を確かめよう

Setagaya Color Guide

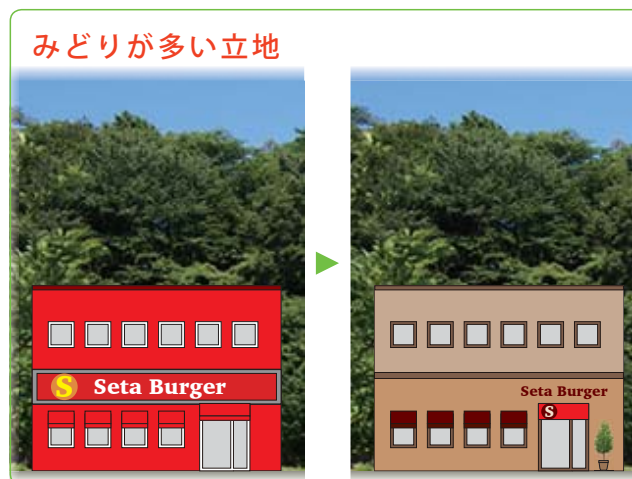
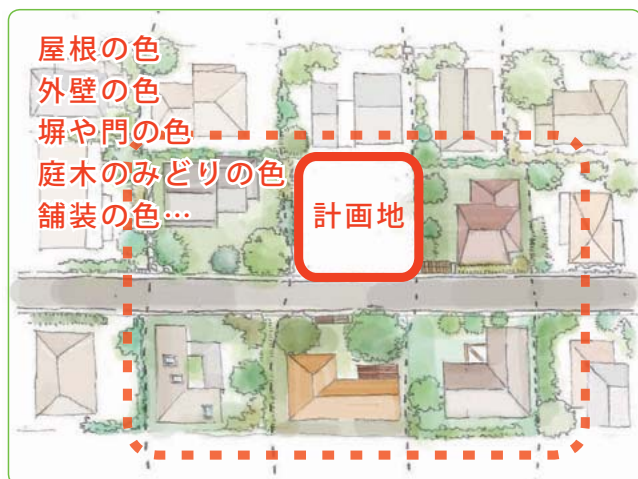
風景観察から始めよう

- ・色彩を選び始める前に、計画地周辺の地形や自然、街並みを構成する歴史や文化、建築物などの色彩要素を観察し、風景がより良くなる色を考えます。



色彩を選ぶ前に、周囲の特徴から色彩を考えよう

- ・計画地に隣接する敷地や道路を挟んだ向かい側の敷地など、周囲にはどのような建築物があり、どのような色彩や素材を用いているのかを把握し、街並みとの関係を踏まえて計画します。
- ・チェーン店や標準規格が決まった建物の場合でも、好ましい色彩は、周囲の状況によって変わります。色彩を固定せず、望ましい色彩のあり方を検討することが必要です。



コラム

まちの色を調べるときに



イメージだけの調査は禁物…色見本帳を使いましょう

- ・周囲の色が暗ければ、その中にある明るい色は実物以上に明るく知覚されます。
- ・周辺の街並みを調査する時は、イメージだけで色彩を捉えるのではなく、塗料の色見本などを持参して、マンセル値を記録するなど、より客観的に色彩を把握することが大切です。

I - ②
自然の秩序に学ぼう

Setagaya Color Guide

・街の風景は自然界の中で成りたっています。そのため、建築物等も自然の秩序に則った配色とすることで、風景として合理的な色彩とすることができます。

彩度

自然物の例

人工物の例

高彩度色

- 変化
- 強い対比
- 一時的
- 動的
- 小面積

花壇の花々、落葉樹の紅葉
鳥や蝶 など



- 目立たせる色
- アクセント
- 強調色

交通・安全標識、催事の色
イルミネーション など

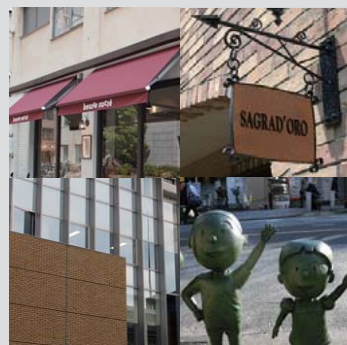


中彩度色

国分寺崖線の緑、街路樹
公園・庭・外構の緑 など



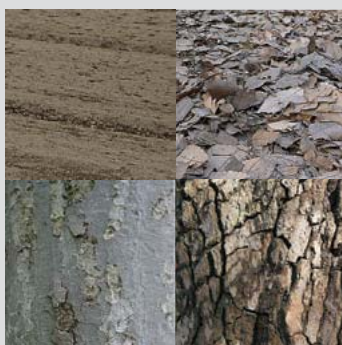
屋外広告物、モニュメント
建築物の強調色 など



低彩度色

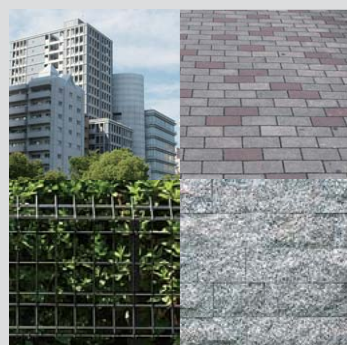
- 不変
- 弱い対比
- 長期的
- 静的
- 大面積

土、砂、岩石、落ち葉
樹皮、枯れ草 など



- 控えめにする色
- ベース
- 基調

建築物の中高層部、照明柱
路面舗装、柵類 など



コラム

イメージに
捕われないで

・桜はピンク、植栽は緑色、川や空は水色…のようなイメージ色を建築物等に使うことは、風景として自然界の色彩の秩序を乱すことになるので注意が必要です。



■写真 外壁や塀を緑に着色すると...

II 色の「使い方」で整える

II - ①
色の使い方を考えよう

Setagaya Color Guide

風景と色彩の調和

- 心地よい風景づくりの視点で建築物等の色彩を考えると、周辺になじむ落ち着いた色彩を用いることが基本です。
- みどり豊かな地域や歴史的な資産に近接する場所では、それらの存在感を損ねないような配慮も必要です。
- 周辺の街並みに規範が見出しにくい場合は、暖色系色相の低彩度色を基本としながら、よりよい街並みに導くような色彩計画を心がけます。

繁華街では違和感のない色彩でも、落ち着いた住宅地では際立って目立ってしまう。



明るい印象の住宅地では違和感のない白が、みどり豊かな風景の中では突出して見えてしまう。

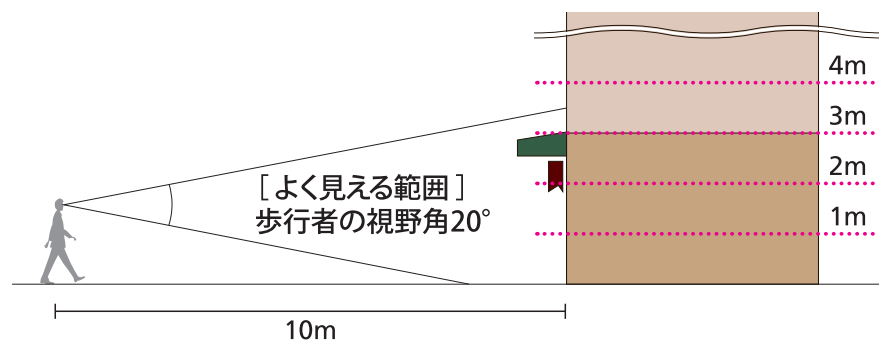


高い建築物の場合、暗い色彩を使用すると、背景となる空との違和感が生じてしまう。



効果的なアクセント色

- アクセント色は全面的に用いるのではなく、人の目につきやすい位置にポイントで用いると効果的です。

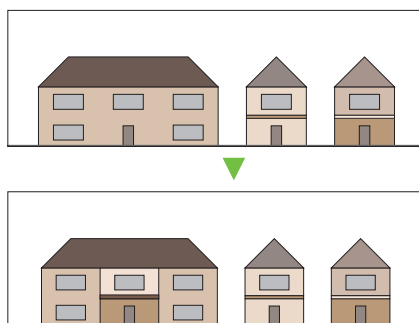


形態による分節化

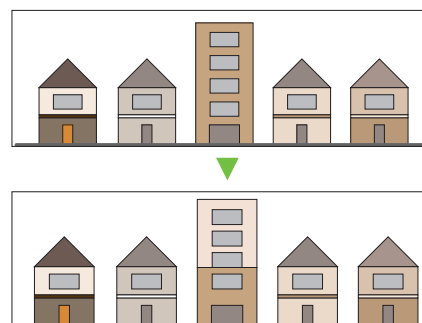
- 住宅地など小規模な建築物が主体となる街並みで一定規模の建築物を計画する場合は、建築物の形態や部材の変化を活かして色や素材を使い分けるなど、スケール感の調和を図ることが必要です。

- 建築物の幅が大きい場合は、周囲にあわせて色や素材、形態に変化を付け、横方向の分節化を行います。

横方向の分節化



縦方向の分節化

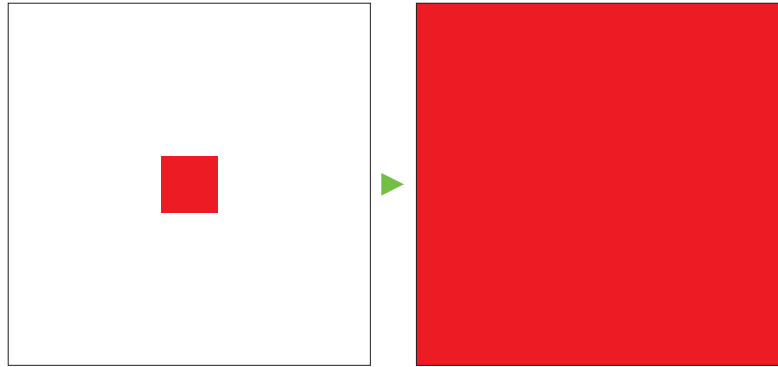


- 建築物が高くなる場合は、周囲にあわせて低層階と高層階の色分けを行うなど縦方向の分節化を行います。

面積効果

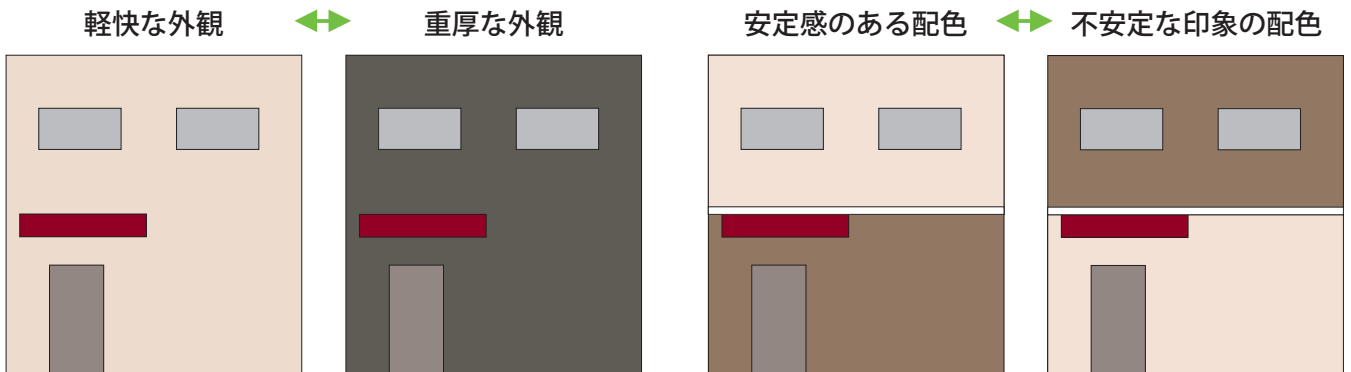
- ・色彩はその面積が大きくなると、その色が持つ特徴が強調される傾向があります。
- ・暗い色や派手な色は圧迫感や威圧感を与える要因にもなるので、十分な注意が必要です。

■面積効果の例



重量効果

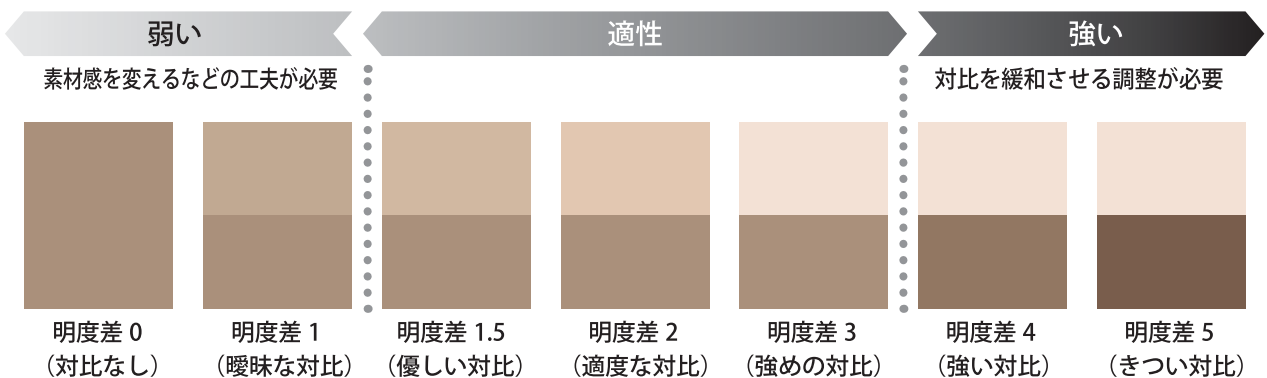
- ・明度が高い（明るい）色彩は軽快な印象を与え、明度が低い（暗い）色彩が重厚な印象を与えます。
- ・建築物の外観に複数の色を用いる場合、低層階に暗い色、高層部に明るい色を配置すると、安定感のある落ち着いた配色となります。
- ・周辺との調和を考慮しながら適度な明度を設定し、外観を計画しましょう。



対比効果

- ・明度差を1.5～3.0程度で配色をすると、親しみやすく、きめ細かなデザイン性を表現することができます。
- ・一方、配色の対比が強すぎると、周辺から突出した印象や圧迫感を与える要因になるので避けるようにします。

■色対比と分節効果



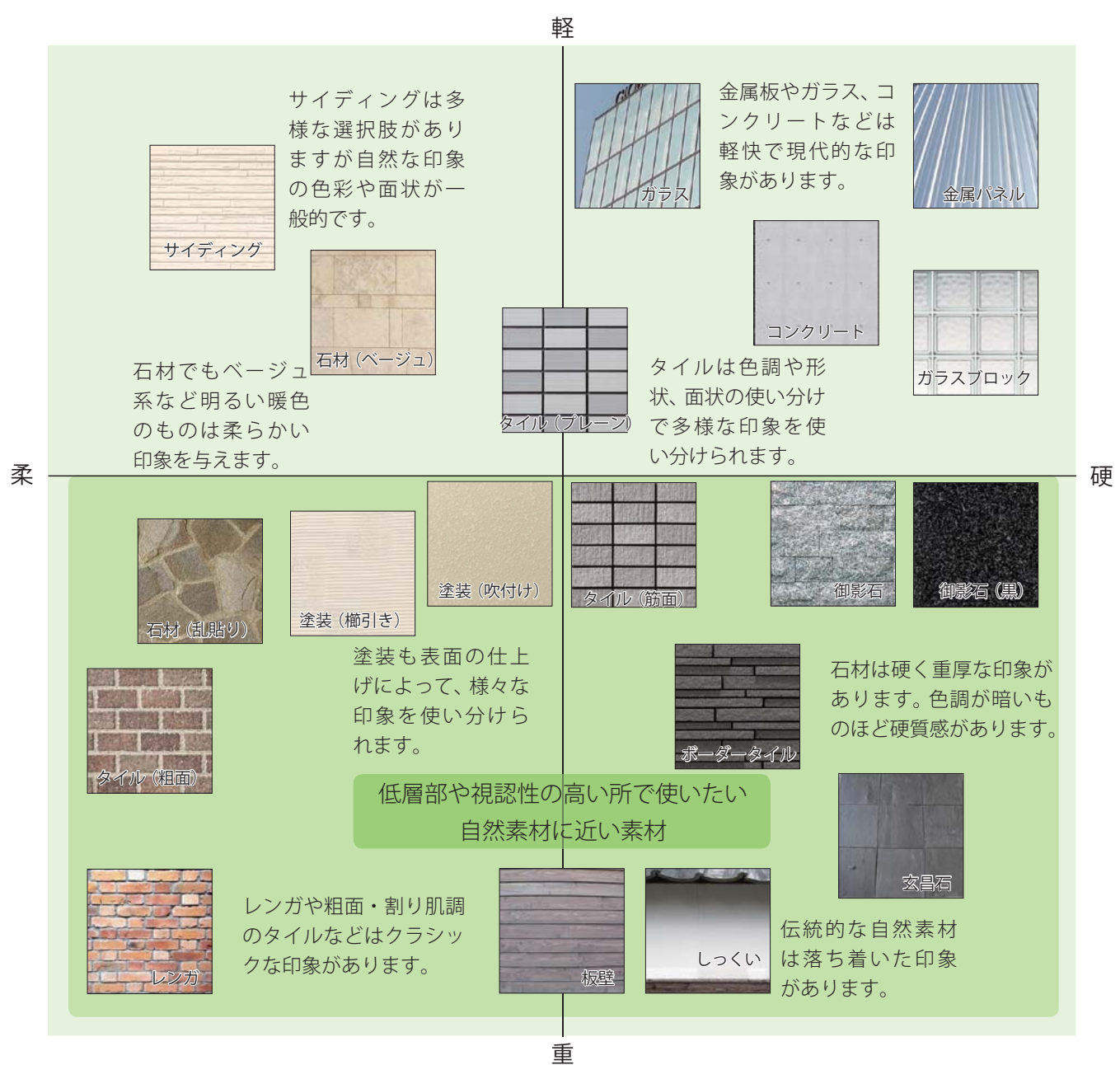
III 色と「素材」で整える

III - ① 素材感を活かそう

Setagaya Color Guide

素材感を活かしてイメージアップ

- ・ 同じ色彩でもレンガ色の塗装と本物のレンガとでは見る人に与える印象が異なるように、私たちは色彩だけでなく表面の凹凸や光沢、斑、目地の有無、経年変化などの素材感で建築物の印象を評価しています。
- ・ 特に人の目に近い低層部や玄関周り、敷地境界の外構などは、素材感豊かな材料を用いることで建築物のイメージアップにつながります。
- ・ 色彩とあわせて素材感を工夫し、表情豊かな建築物等を計画しましょう。





わずかに暖色の色味をもつ打ち放しコンクリート



豊かな表情をもつ杉板型枠コンクリート



自然な色調のガラスバルコニーの例



＜参考＞主な建築材料の色彩

右表は主な建築素材の標準的な色彩範囲を示したものです。色彩を計画する際の参考として下さい。

コンクリートは無彩色？

- ・無彩色のグレーに見える打ち放しコンクリートの色彩は、5Y7.5/0.5～5Y7.0/0.5程度の色彩が中心で、わずかに暖色の色味をもっています。
- ・このため、コンクリートと組み合わせるタイルや塗料の色彩も、無彩色ではなくコンクリートと共通性のある暖色系の低彩度色とすることで、コンクリートの無機的な印象を低減することができます。

打ち放しコンクリートにも自然な表情づくりを

- ・コンクリートは無機的な印象を与えがちですが、例えば杉板の型枠を用いることにより自然な印象の質感と色合いを創出することができます。
- ・また、目につきやすい部分に落ち着いた色彩のタイルや石材を組み合わせることにより、外観に表情をもたせることもできます。

ガラスは透明？

- ・透明のガラスも、実際には緑から青系の色味をもっています。
 - ・ガラスを用いる場合は、暖色中心で構成される建築物や街並みとの違和感が生じないように、過度な着色は避けましょう。
- ※着色ガラスは、そのほとんどが色彩基準に適合しません。



青い着色ガラスの例

透明度のコントロール

- ・バルコニーの面材にガラスを用いる場合は、バルコニー内の洗濯物や設備等が丸見えになったり、近隣との視線の干渉が生じることもあります。
- ・特に、大きな通りに面した建物や隣棟との間隔が少ない建物、歩行者の目につきやすい低層階では、半透明或不透明のガラスを用いるなどの工夫が必要です。

主な建築材料		色相	明度	彩度
コンクリート	新	2.5Y～7.5Y	7.0～8.0	0.2～1.5
	古	10YR～10Y	6.0～7.0	0.2～1.5
石材	白御影	7.5YR～5.0Y、N	7.0～8.5	0.0～1.0
	錆御影	10YR～2.5Y	5.5～8.0	2.5～4.0
	黒御影	7.5YR～5.0Y、N	1.0～4.0	0.0～1.0
木材	新	7.5YR～2.5Y	5.0～8.5	3.0～6.0
	中	5.0YR～10YR	3.0～7.0	2.0～4.0
	古	5.0YR～10YR	2.0～4.0	0.5～2.0
ガラス	透明	5G～5B	6.0～8.0	0.5～2.0
	ブルー系	5BG～10PB	5.0～8.0	1.0～4.0
	グリーン系	10GY～5BG	5.0～8.0	1.0～4.0
	グレー系	5G～5B、N	4.0～8.0	0.0～2.0
アルミ型材	シルバー	10YR～10Y、N	7.5～8.5	0.0～0.5
	ステンカラー	10YR～5Y	6.5～8.0	0.5～1.5
	ブロンズ	10R～10YR	4.0～6.0	2.0～4.0
	ブラウン	10R～10YR	3.0～5.0	1.0～3.0
	ブラック	N	1.0～2.5	—
レンガ	新	5.0R～2.5YR	3.0～5.0	2.0～8.0
	古	5.0R～10R	2.0～4.0	2.0～6.0
いぶし瓦	新	10YR～5.0Y	6.5～5.0	0.0～0.5
	古	10YR～7.5Y、N	3.5～5.0	0.0～1.0